

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年10月14日 (2010.10.14)

【公開番号】特開2008-189661(P2008-189661A)

【公開日】平成20年8月21日 (2008.8.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-033

【出願番号】特願2008-4759(P2008-4759)

【国際特許分類】

C 0 7 C 211/09 (2006.01)

C 0 8 G 69/26 (2006.01)

C 0 7 C 209/86 (2006.01)

C 0 7 C 209/68 (2006.01)

C 0 7 C 209/84 (2006.01)

C 0 7 C 55/14 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 P 13/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C 211/09

C 0 8 G 69/26

C 0 7 C 209/86

C 0 7 C 209/68

C 0 7 C 209/84

C 0 7 C 55/14

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 P 13/00

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月30日 (2010.8.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

カダベリン塩が、ジカルボン酸塩であることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載のカダベリン塩水溶液の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

かくして本発明によれば、分子量 12,000 以上の高分子不純物を除去することを特徴とするカダベリン塩水溶液の製造方法が提供される。

ここで、本発明が適用されるカダベリン塩水溶液の製造方法において、さらに分子量 5,000 以上の高分子不純物を除去することが好ましい。

また、斯かる高分子不純物は、膜処理による除去を行うことが好ましい。

また、斯かる膜処理としては、限外濾過膜（UF 膜）処理を行うことが好ましい。

ここで、本発明が適用されるカダベリン塩水溶液の製造方法において、カダベリンが、

リジン脱炭酸酵素、リジン脱炭酸酵素活性の向上した組み換え微生物又はリジン脱炭酸酵素を産生する細胞もしくはこの細胞の処理物を使用して、リジンから産出されたものであることが好ましい。

また、カダベリン塩が、ジカルボン酸塩であることが好ましい。